

2007.12.8 (土) 9:10~9:50 早稲田大学大久保キャンパス  
(社) 土木学会 景観・デザイン研究小委員会

土木学会「第3回景観・デザイン研究発表会」基調講演

人間を学ぶ土木工学—その中で景観・デザイン研究の位置づけ—

本会名誉会員・東京工業大学名誉教授 鈴木 忠義

はじめに

表題について

土木は民衆工学 ←——→ 仲間工学

1. 学問の進歩とは

私は、以下のお二人の言葉が教育者として大切だと考えている。

(1) 橋本五郎 氏 (読賣新聞論説委員) / 読賣新聞 2004.7.4 (日) 書評欄

学問の真価 それは何によって問われるだろうか。現に起きている事象について、説得力をもって分かりやすく説明できるかどうか、この一点にかかっていると書いていいだろう。

(2) 井上ひさし 氏 / 読賣新聞 2007.7 編集手帳

言葉は相手の胸に納まって意味をもつ。「むづかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」

また、言葉の力、写真の力も尊重している。

そのような主旨で以下の三つの小著・編集を行った。

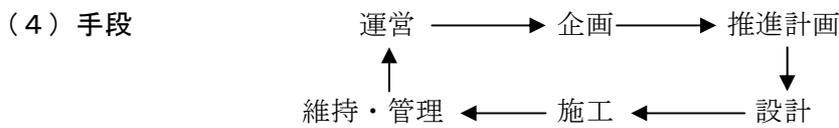
「人間に学ぶまちづくり」(社)九州建設弘済会、A5、130PP、2003.3 (絶版)

「人間に学ぶみちづくり」(社)道路緑化保全協会、A5、136PP、2005.1

「みんなでつくる美しい道」技報堂出版、A5、123PP、2007.5

## 2. 土木の仕事

- (1) 主体  
 第一主体 利用者  
 第二主体 地域・・・世の中  
 第三主体 専門家、参加者
- (2) 目的 三方（三つの主体）よし
- (3) 対象軸  
 空間 宇宙 —— 足下 —— 蟻の一穴  
 時間 長時間 —— 短時間  
 (変化と速度) (災害、困難) (交通事故)



### (5) 構成

1	2	3	4
<b>原論</b> 1. 概念 2. 原理の追求 3. 意義・役割 (人間にとって)	<b>方法論</b> 1. 企画の立て方 (目的、合意形成) 2. 計画の手順 (手段の選択と手順) 3. 評価	<b>手法論</b> 1. 地域・地区 2. 目的 3. 設計	<b>周辺諸学</b> 公・共・私論 社会・経済論 経営論 ..... .....
5 各論			

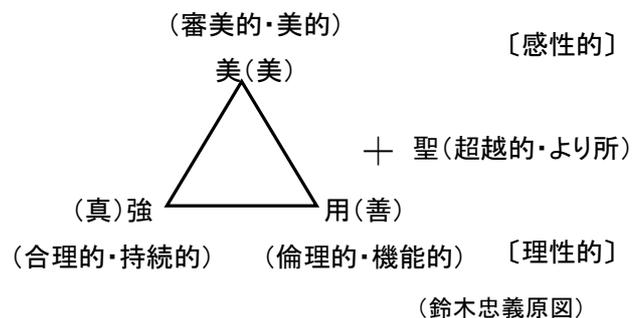
- (6) 組織 職場

## 3. 原論に関する例示

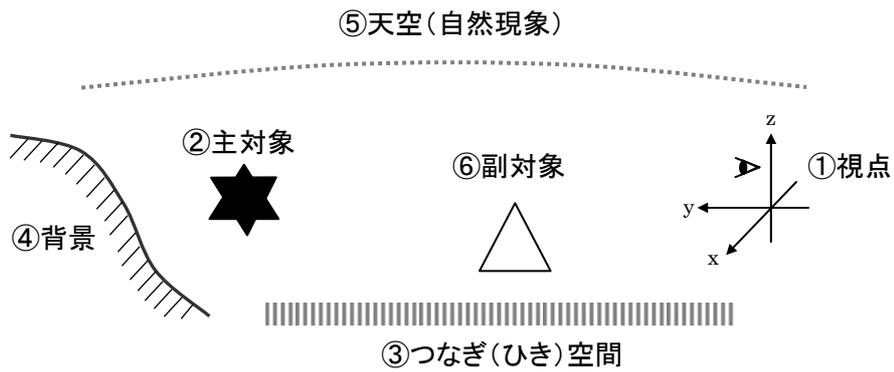
### (1) 人はなぜ美を求めるのか

- ① 生き物の現象観察 性
- ② 人間の欲求： 交易・統治・文化（その基礎は学問、芸術、技術、教育）・宗教・人間性
- ③ 文芸にみる： 「芸術は何がためにあるのか」：伊藤 整、1957、他に多くの芸術論
- ④ 自然美 —— 技術美 —— 美術美  
 (生きがい)

- ⑤ 「ウィトルウィウス 建築書」 諸技術の基礎となる自然科学的知識を網羅した、いわば大技術の全書。  
 原著は 33～22B.C.(古代ローマの建築家・建築理論家)

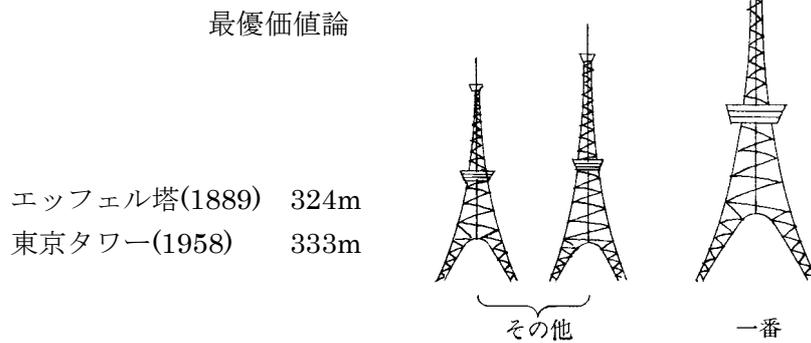


(2) 景観の要素と構成



景観は統合のダイナミック・システム

4. 方法論の評価の例示



むすび

自然美 ———— 美術美  
技術美

エンジニアの誕生・・・engineer=en+genius (天才)

エンジニアの一号はレオナルド・ダ・ヴィンチ (1452-1519)

坂本賢三ほか編：科学史技術史事典、弘文堂、B5、1410pp、P.252、1984

## 鈴木 忠義 先生 プロフィール

---

「当て塾」塾長 ・ 東京工業大学名誉教授 ・ 農学博士

1924年東京都出身。1949年東京大学第二工学部土木工学科卒業。東京大学、東京工業大学、東京農業大学で教鞭を執る。一つの専門性に留まることなく、土木工学、林学、都市工学、社会工学、造園学など広範な学問分野を求め、観光学、景観工学、地域開発の研究と教育に従事。

近年の主な著書は「人間に学ぶまちづくり」(九州建設弘済会)、「みんなでつくる美しい道」(技報堂出版)など。現在、(株)世田谷川場ふるさと公社社長として区と村の交流事業を26年間続けるほか、2000年に「当て塾」を設立し、地域研究と人材育成を続けている。

---